

まえがき

教員養成高度化センター

教科教育学研究部門 専担教員 丹藤 博文
船尾日出志

今回の報告書では「資料」として有田和正先生の講演記録（平成 24 年 9 月 29 日）もまた掲載しました。有田先生はいじめ問題にも言及され、教師が楽しく、そして子どもたちをしっかりと見ながら授業すれば、いじめは防ぐことができるという趣旨の発言をなさっています。

「資料」としてはもう 1 つ附属養護学校と附属岡崎小学校における教育実習生への指導案指導についてのレポートを掲載しました。両校の指導案とも、教師が子どもたち一人ひとりを理解することを求めています。

教科教育学研究部門は、1976 年度から 1997 年度まで存続した教科教育センターの伝統を継承する愛教大の研究組織です。教科教育センターは 1998 年度より教育実践総合センターに統合されましたが、当然、教科教育担当者を中心とする研究組織は維持されました。

教育実践総合センターが誕生したきっかけは、大河内清輝君のいじめによる自殺事件です（1994 年 11 月）。大河内君のいじめについては、担任教諭も察知して、出身大学であった愛教大の教員に相談に来ていました。相談を受けた教員も誠実に助言なさっていたことは間違いありません。にもかかわらず、いじめを止めさせることができず、大河内君の自死を止めることはできなかったのです。

その事件は愛教大にも大きな衝撃を与えました。当時、教科教育センターで活動していた教職員もまた「何かしないと！」と思いました。その結果、教科教育センターが主催者となって 1995 年度より 3 年間、いじめ問題についての講演会、調査研究等を実施しました。その成果は次の 3 冊の報告書にまとめられています。

『いじめ問題と教育のあり方について考える－講演・シンポジウム記録』（愛教大教科教育センター編，1995 年）

『わたしたちは「いじめ問題」にどのように対応すべきか：学生、教官、中学校教員へのアンケートから考える：講演・シンポジウム記録』（愛教大教科教育センター編，1996 年）

『いじめ問題と学校教育の在り方－いじめ問題と学校教育の在り方に関する調査研究プロジェクト報告』（愛教大教科教育センター編，1997 年）

その 3 年間の活動は愛知県の枠を越えて広く注目されました。そしてその流れを受けて教育実践総合センターが誕生したのです。

わたしたちは確かに教科教育研究者です。たとえば丹藤は国語教育、船尾は社会科教育を専門としています。しかし児童生徒が国語や社会にかんする知識を獲得し、理解を深めれば、それでよいとは思っていません。むしろ教科を通して人を育てるのです。

今回掲載したすべての報告もまた、人間性を育てる教育実践について述べているのです。